

に於ける偽作の起原由來に就ての科學的批判を擧げて論述を了れり。尙附録として *Silver* 傳、コンスタンチン、改宗の一節、コンスタンチン、寄進文書、*Charters* の寄進文書、批判文を添へ且つ詳細なる史料及參考書目を附したり。本書は全體に於て別段獨創的見解として將た嶄新なる所説として認むべきもの鮮しと雖も、コンスタンチン大帝と基督教との關係に就て廣く史料に涉りこれを吟味批判し從來各方面より提出せられたる諸論議を參考して穩健なる論斷を下したるを、歴史事實上に於ける大帝の事蹟と並べて、これと同様に着實なる態度を以て傳説上偽作上に於ける大帝の幻影を研究せることは注目し値すべき點なるべし。〔植村〕

●日本遺蹟、遺物、圖譜 第一輯、第二輯

本圖譜は本邦各地に散在せる石器時代・古墳時代の遺蹟及び其遺物を調査研究せんとする者の參考に資し、兼て遺蹟の實際を圖にあらはして永く傳ふる目的を以て、去る四月より毎月一回遺蹟、遺物研究會より刊行するもの、編輯者は此の方面の實際に通ぜる和田千吉氏なり、圖版は縦一尺五寸横一尺五分の大版にて一輯コロタイプ版六葉解説一葉より成り、時にはコロタイプに代ふるに本版色刷二三を以てする事ありと云ふ。今既刊の分を見るに、第一輯には陸前國、宮戸島、濱貝塚、發掘遺物、越前國、新横江村、發掘の銅鐸、其の遺蹟、豐後國、大分市、宇龜甲の古墳、及び下野國、横川村、大

字江曾島、發掘の櫛を收め、第二輯には宮戸島、濱貝塚の遺物、豐後大分市、宇龜甲の發見遺物、筑後國、千年村、大字、徳丸、發掘の銅劍、筑前國、周船寺村、丸隈山、古墳の石棺、羽前國、大山町、宇火、打崎、發掘の石棺、上野國、清里村、宇道上、發掘の遺物を掲げたり。

此の圖譜の特色とする所は從來の多くの考古圖類が單に其の物の一面を示すに過ぎざるに反し、左右側等各方面よりこれを示し、又其の遺物を發見せる遺蹟を併せ收めて一遺蹟の内容外形に亘る凡てを網羅せんとせる點にあり。此の方針を以て綴々刊行されたるんには從來考古學研究上の缺陷を補ふ事少なからざるべし。其の圖版稍大に失し取扱に不便を感じる如きも、これ亦遺物を多く實大に示すの便あらん。たゞ解説に多少文意の通ぜざる所等あるは今後の改訂を望まざるを得ず。〔梅原〕

●奈良縣、史蹟、地調查會報告書 第三回

此の書は奈良縣史蹟勝地調查會の大正四年度の報告書にして、其の年間に各委員が實査せる各種の遺蹟の研究結果を收めたるもの本。別の二冊より成る。本冊は本文八十六頁、附録六頁、圖版八十七葉にして、天沼・水木・佐藤・高橋・新納・大宮・西崎各委員の寺址・石燈・石塔・石佛・古墳に關する報告を載す。中に就て天沼委員の報告は寺址・石燈・石塔・石佛・古墳に亘り十五種の遺物遺蹟の詳細なる記述あり、本文二十頁、圖版四十一葉、本書の主

要部をなす。其他高橋委員の鹽城郡、多武峯、河大字、栗原、ハナヤマ、西塚の研究、佐藤委員の須塔山、石佛の調査報告、新納委員の地獄谷、石佛調査書、大宮委員の碑田阿禮の舊跡に關する報告等あり、附録として史蹟勝地保存事業の一覽表を載せ、別冊は天沼委員の手になる「奈良縣金石年表」を載せたるものにて本文百四十四頁、推古元年より慶長二十年(改元迄)に至る同縣下に遺存せる金石文、會て奈良縣に在りて現今他に移れるもの及び他より移り來れるものを殆んど遺漏なく收め、主要なる遺物の寫眞十六葉を附せり。本報告書の最も採るべきは、其の遺蹟の多くが各委員が専攻の方面より詳細なる調査をなしたる結果を載せたる事と、從來此の種の報告に最も必要なる遺蹟の實狀を示すべき圖版の頗る豊富なる點にあり。之に據りてそれらの遺蹟の最も正確なる智識を與へ、往古我が國の中心を形成せる大和、平野研究の基礎たるべき貴重なる資料を學界に提供す。たゞ其の調査報告中或遺蹟の如きは其の特色とすべき重大なる點を脱したるものあり(例へば佐藤委員の權現堂、古墳に於て其の封土内の一隅のみを記し、同じ封土中今一個の石棺の埋没せるを闕却せるが如き其の一例なり)。是等は此の報告書の性質上最も遺憾なる點なりとす。猶吾人の希望を述べんに調査區域を限定し遺蹟の分類を設けて、統一的に記述せられん事にあり。今回別冊として出されたる「奈良縣金石年表」の如き

は此の點に於て大に採るべきものあるべし。(梅原)

●大阪府史蹟調査委員會報 第一號・第二號・第三號
去大正四年五月より管下の史蹟調査を開始せる大阪府にては、本年に入りて「史蹟調査委員會報」を發刊するに至り、既に其の第一第二の二冊を出せり。第一號は日給二葉、本文三十五頁、鈴木調査委員會長の史蹟調査事業の説明を初として、委員會の組織と事業の經過に關する報告、其他各委員の調査、史蹟保存に關係ある會合の記事あり。第二號は日給七葉、本文五十八頁より成り、喜田文學博士の「河内の古代」の講演筆記を初めとして八尾、岸和田、池田各地にて開催されし史蹟講演會並に史料展覽會の關係記事を取め、其の間委員の報告及び調査の方針を見るべき材料を擧げたり。其他今井貞一氏の大阪府史蹟關係圖書解題を兩號に連載せり。第三號は日給に、三好實休畫像以下六葉の寫眞版あり。記事には、喜田文學博士の「史蹟の研究」に就てと云へる講演筆記を始め堺市、蹟津、濱富並に史料展覽會及北河内郡郷土史料講演會並に展覽會の概況、其他徳川頼倫侯の「保存事業の本領」、月川安宅氏の「保存の實驗談」、國府種徳氏の「郷土保存と青年會」等の講演筆記等あり。此等會報によりて大阪府に於ける史蹟調査事業の一斑を窺ふべきものなり。(梅原)